

ローカルフードプロジェクト(LFP)の第一歩

—農林水産省大臣官房新事業・食品産業部企画グループ課長補佐・松本秀明—

農林水産省は令和3（2021）年度から、新規事業として「地域食農連携プロジェクト（LFP：Local Food Project）推進事業」を開始した。同年度には21の道府県が試行錯誤しながら懸命に取り組んでいただき、それぞれが新しい何かを見いだすことができたのではないかと考えている。本稿では、幾つかの取り組みを紹介しながら初年度を振り返り、LFPの今後の展開について考えてみたい。

◇地域資源を活用したビジネス創出の新しい仕組み

LFPでは、都道府県が中心となり、1次産業から3次産業に係る事業者がそれぞれの知見や技術、販路などの経営資源を結集する場として、プラットフォームを設置する。その場において、多様な事業者が、社会的課題の解決につながるようなビジネスを生み出すとの旗印の下、ビジネスパートナーとしてしっかりつながり、対話を重ねてイノベーション（新しい何か）の創発にチャレンジする。商品やサービスの価値とともに社会的な価値、つまり新しい価値を消費者に提示し、届けることで、顧客ニーズを創り出す取り組みである。

まず、LFPの仕組みの土台となるプラットフォームの設置について触れたい。幾つかの県では、県事務局や県庁担当者が汗をかいて県内を走り回り、プラットフォームに多くの事業者を参集して、地域にどんな課題が潜在するのか、課題を解決するにはどうしたらよいか、何度も対話を重ねた。ある県では、事業で実施する研修会や戦略会議以外にも、毎月定例でリモート形式の対話を行ったと聞いている。その結果、多くのアイデアが創発し、事業で支援するプロジェクト以外にも、幾つものプロジェクトが立ち上がった。さらには、県庁の自前予算を措置して、これらのプロジェクトを支援するなど、LFPが県庁の施策と連携する成果もうかがえた。

次に、社会的課題解決という旗印について。地域をけん引する事業者の経営者は、日頃から自己の経営のみならず地域の将来も見据えているのではないかと考えているが、ある県では、このような事業者がLFPのプラットフォームで出会い、一人ひとりが持っていた問題意識が見事に融合し、早くも強固なビジネスパートナーの関係性を構築し、アイデアを続々と創発していた。まさに、社会的課題解決という旗印が連携の接着剤となり、イノベーションを巻き起こした事例である。

続いて、LFPが創発したイノベーションについて。消費地まで遠い地域の物流コストや、地域内の物流システムの再構築も、多くの地域の共通課題であるが、県内の農林水産物の鮮度を保つことで販路をさらに広げるため、流通業者とLCC（格安航空会社）が連携して、空路一貫高速小口貨物輸送システムを構築した。産地から空路で東京や関東圏のホテルやレストラン、ショッピングセンターに農林水産物を輸送するが、陸路輸送では、輸送ボックス内の温湿度やガス組成などの環境をクラウド上で可視化して最適化する新しいシステムも導入している。この取り組みは、異業種連携が農林水産物の販売拡大や地域に潜在する物流の課題解決を実現したビジネスモデルとなった。

また、安心して地域の豊かさを感じる食事を子供たちに提供することを目指して、子育てママのNPO法人が地域の農業者や加工業者と連携し、自ら野菜スープの商品企画と販売に取り組んだ。この取り組みは、食を通じて消費者と農業のつながりを深めたことに加えて、子育てママの社会活躍にもつながった。



松本 秀明（まつもと ひであき）

1987年農林水産省入省。2020年4月から現職。

◇LFPの取り組みを高めるクラウドファンディング

L F P では、テストマーケティングとしてクラウドファンディングに取り組んだ。専門家を派遣して都道府県の取り組みを伴走支援する中央 L F P（受託者＝株式会社 R P I、一般社団法人食品需給研究センター他）を構築し、株式会社マクアケの協力を得て、プロジェクトページの作成等を支援した。21年度は6県の L F P がチャレンジし、同年度末時点で4県の L F P が目標を達成するとともに、多くのファン獲得につなげた。

目標を達成することに越したことはないが、目標を達成せずとも「M a k u a k e」でプロジェクトに取り組んだ成果は大いにあり、サポーター（応援者）の属性や未達成の要因を分析することで、マーケティングの検証、商品やサービスの改善につなげることができる。さらには、プロジェクトで集めた資金を元手に取り組みを発展させることも可能である。消費者の共感を得ることで応援するクラウドファンディングと、社会的課題解決につながるようなビジネスを生み出す L F P との親和性は高く、L F P の取り組みを高めるものと再認識できた。

ローカルフードプロジェクト
すべてのプロジェクト

プロジェクト名	目標金額	現在金額	進捗率
【ママ考案】大切なひとに食べさせたい栄養満点スープ！	1,008,800円	336%	終了
植物由来の素材だけで作った、やさしい味わいのサクサク食感「オリーブクッキー」	221,130円	110%	終了
ふじのくにFUDO特別創刊号 静岡LFPセット【静岡野菜+ミネストローネ】	578,400円	55%	16日
3種のおつまみ手けんびと手拭耐度"よか喉"を～さつま手産業を百年先まで守りたい～	309,600円	86%	終了
簡単調理！綾町×タマちゃんショップが贈る～オーガニック野菜乾燥ミックス「ベジ畑」	280,000円	186%	終了
ヘルシー♡美味しい♡新しい♡ 本場は誰にも敵えたくない！ ナイショのハンバーグ	740,300円	493%	28日

「M a k u a k e」のプロジェクトページ

◇LFPの今後の展望

初年度は、多様な事業者が参画したプラットフォームを設置して L F P に取り組む意義（社会的課題解決）を共有し、連携してイノベーションを創発させるという新しいビジネス創出の仕組みが地域の潜在能力を引き出したという点において、一定の成果を確認することができた。また、異業種が参画することで取り組みが大きく広がることも確認できたことから、今後の L F P では、より多くの事業者や異業種の経営資源をプラットフォームに結集する仕組み、つまりオープンイノベーションを目指す必要があると考える。また、クラウドファンディングに積極的に取り組み、L F P の新しい価値の消費者への伝え方を磨くことも必要である。

最後に、21年度に L F P に取り組んだ21道府県の L F P の皆さま、中央 L F P の皆さまの果敢なチャレンジに感謝して、本稿の結びとする。